

# 「これって何？」

## －魚介類に付着した異物－

一般の方や漁業者から「これ何じゃろうか？」と言って、体表に付着した虫や魚をさばいたら変なものが筋肉中にある等の問い合わせがたまにある。持込みされた方から「気持ち悪い」、「人に害はないか・・・」など心配する声を聞く。そのような事例を今回、いくつか紹介する。

平成24年秋、「底びき網で漁獲されるガザミの鰓に虫のようなものがついている(写真1)。カニは大丈夫か？」と漁業協同組合から連絡があった。この虫は、「カニエラエボシ」という甲殻類の仲間で、大きさは5～7mm。ガザミの鰓に付着しているだけで、栄養等を吸収しているのではなく、ガザミ自体への影響は少ないものと思われる。ただ、大量に付着すると呼吸に影響したり、商品価値が下がることも懸念される。



写真1 ガザミの鰓に付着した虫

次に、平成26年秋に漁業者から、「底びき網で獲ったテンジクダイの体表に黒いヒモのようなものがついている(写真2)。調べてほしい。」という連絡を受けた。この虫は甲殻類の「イカリムシ」の仲間であった。日本海側の天然キジハタでも同様の事例が報告されているが、いずれも寄生のピ

ークは9、10月頃であった。



写真2 テンジクダイ体表に付着したヒモ状のもの

平成27年4月には一般の方から、「釣ったボラをさばいたら筋肉中に赤色の塊があった(写真3)」と持込みがあった。一見すると筋肉中に大型の虫が寄生した様であるが、顕微鏡で観察してみると、血球細胞が見られたことから、血液が固まったものと考えられた。



写真3 ボラの筋肉中に見られた赤い塊

以上、今回3つの事例を紹介したが、「食べても大丈夫なの？」という疑問が残る。基本的にこれらは人には寄生することはなく、食中毒の原因とはならないので、大丈夫である。

(開発利用室：泉川)